

I

次の国語課題の設問に答えなさい。(答えはすべて解答用紙に記入すること)

- 一 今日の子どもたちは、①多様性を否定する画一的な檻のなかへ囲い込まれていた時代とは異なって、むしろ多様性を奨励するようになった新しい学校文化のなかを生きています。学校の教師にも抑圧性を感じなくなり、仲間で団結して立ち向かう敵とはみなさなくなっています。そのため、学校文化に反旗を翻す②ことで成立してきた非行文化は、その基盤を徐々に失いつつあります。
- 二 しかし、いくら多様性が賞揚されるといっても、あらゆる個性のあり方が学校で③ジューウされるわけではありません。そもそも周囲の期待にそうものでなければ、その個性が肯定的な評価を受けることはありません。とりわけ学校は、他人との密接な関係をなせば強制された空間です。そのため、今日の子どもたちは、かつてのように画一的な評価の物差しを押しつけられなくなった代わりに、今度は、身近にいる個別の人間から逐一に評価を受けざるをえなくなっているのです。
- 三 多様な個性のあり方が賞揚される現代では、普遍的で画一的な物差しによってではなく、個々の場面で具体的な承認を周囲から受けることによって、自己の評価が定まることとなります。平たくいえば、ここでウケをネラえる④か否かが、自己評価にあたって重要な判断材料となるのです。しかも、客観的な評価の物差しがそこに存在するわけではありませんから、相手がどのような反応を示すかは前もって予想しづらく、評価された結果を待つて初めて判断されることとなります。「A」「自己承認を得られるか否かは、その時になってみなければ分からないのです。」
- 四 かつて、社会の側に安定した価値の物差しがあった時代には、時々場の空気や気分などによって、個々の評価が大きく揺らぐ⑤ことはありませんでした。だから、周囲の人びとによる一時的な評価を過剰に気にかけたり、それに翻弄⑥されることも少なかったといえます。場合によっては、「我が道を進む」と孤高にふるまうことすらできました。社会の物差しを自らの内面に取り込み、それを自分の物差しとすることで、自己肯定感の安定した基盤を確保できたからです。「B」「そういった支配文化に違和感を覚えていた少年たちも、対抗文化の物差しを自らの内面に取り込み、それを自分の物差しとすることで、自己肯定感の安定した基盤を確保することができました。いずれにせよ、自分が属する文化の正当性に裏づけられたジャイロスコープ(回転儀)が自分の内部で作動していたので、それを支えに一人で立っていることも容易だったのです。」
- 五 しかし、人びとの価値観が多元化し、多様な生き方が認められるようになった今日の社会では、高感度の対人リーダーをつねに作動させて、場の空気をピンカン⑦に読み取り、自分に対する周囲の反応を探っていくなければ、自己肯定のための根拠を確認しづらくなっています。いわば内在化された「抽象的な他者」という普遍的な物差しが作用しなくなっているために、その代替として、身近にいる「具体的な他者」からの評価に依存するようになっていっているのです。
- 六 今日の若い世代が、ケータイの「圏外」表示に強い不安を感じ、友達関係から疎外されることを過度に恐怖するのは、⑧このような理由によるところが大きいと思われます。身近な人間から受ける個別の評価がアットウテキ⑨な力を持ち、そのために人間関係の拘束力がかつてよりも大幅に強まっているのです。KYという言葉は、まさにその生きづらさを象徴しているように思われます。

【七】誤解のないように述べておきますが、かつてのように規範の拘束力が強かった時代のほうが、子どもたちは幸せだったと述べているわけではありません。その時代は、画一的な物差しを強引に押しつけてくる社会の抑圧力が非常に強く、当時の子どもたちは、その抑圧力のなかで鬱積した生きづらさを抱えていたはずです。特定の枠組みを強制されるうっとうしさから解放され、多様な生き方が認められるようになったという点では、現代のほうがはるかに生きやすい時代でしょう。

【八】今日の問題は、多様性の賞揚に由来する新たな困難が、身近な人間関係の拘束力の強まりというかたちで表れている点にあります。ですから、過去と比較して、生きづらさが増大しているか否かを問うことは意味がありません。「C」「その生きづらさの性質が、社会の拘束力の強さにもとづくものから、人間関係の拘束力の強さにもとづくものへと、^③時代とともに変化している点に目を向けるべき」なのです。

【九】価値観が多元化し、人びとの関心対象が千差万別になった世界で、相手の反応を鋭敏に読みとってつねに良好な関係を保ち、相手からの評価を得やすいように自分の個性を効果的に呈示し続けるのは困難なことです。しかし、それは同時に、自己肯定感を保っていく上で必須の営みでもあります。そして、その営みをこなすために必要となるのは、なんといっても他者と円滑なコミュニケーションを営む能力でしょう。

【十】スクール・カーストでの生徒たちの序列づけも、勉強やスポーツが得意か否かによってではなく、友だちと一緒にいる場を盛り上げ、その関係をうまく転がしていけるようなコミュニケーション能力の高低によって決まってきました。^④「いまの教室は、その能力が専制力をもった空間なのです。その意味で、コミュニケーション能力こそが自己肯定感の基盤になっているともいえます。」

【十一】コミュニケーションの対象とされるべき共通目標があれば、その技術が多少は下手であっても、目前の切実な必要に迫られてなんとか意思疎通を図ろうとしますから、コミュニケーション能力の有無^⑤は二の次の関心事となります。「D」「現在は、人びとの関心対象が千差万別になったことで、コミュニケーションされるべき切実な話題は少なくなっているにもかかわらず、自己肯定感の基盤であるコミュニケーション^⑥の場はつねに確保され続けなければなりません。その結果、コミュニケーションの形式やその能力だけが極端にクローズアップされることとなります。」

【十二】しかし、よく考えてみれば、コミュニケーション能力ほど、その価値が他者の反応に依存するものではありません。コミュニケーションとは、その原理的な性質からして、けっして自分の内部で完結するものではなく、つねに他者との関係の総体だからです。^⑤コミュニケーション能力は、相手との関係しだいでも高くも低くもなりうるものです。それは、じつは個人がもっている能力ではなく、相手との関係のサンプル^⑥なのです。その意味では、スクール・カーストもかなり偶然性に左右されています。しかし、だからこそ、自分の努力では変えられない強い拘束力をもつのです。

（土井隆義『キャラ化する／される子どもたち 排除型社会における新たな人間像』岩波書店、二〇〇九年）

【注】

KYⅡ場の雰囲気・状況を察することが出来ない人のこと。

スクール・カーストⅡ現代の日本の学校空間において、生徒の間に自然発生する人気の度合いを表す序列

を、カースト制度のような身分制度になぞらえた表現。

問一 波線部①～⑩のカタカナは漢字に、漢字は読み方をひらがなで書きなさい。

問二 空欄「A」～「D」に入る接続詞として適当なものを、ア～エからそれぞれ一つずつ選び記号で答えなさい。(重複不可)

ア さて イ むしろ ウ しかし エ すなわち オ また

問三 傍線部(1)「多様性を否定する画一的な檻のなかへ囲い込まれていた時代」とあるが、それはどのような時代か。その説明として最も適当なものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア 子どもたちの個性的なものの考え方が、学校で極めて肯定的に評価されるような時代
イ 普遍的で画一的な物差しで子どもを判断するために、個々の評価が大きく揺らぐような時代
ウ 抑圧的な態度を取らなくなった教師に対して、子どもたちが団結して抵抗するような時代
エ 子どもたちが社会から画一的な規範的価値観を押しつけられて、生きづらく感じるような時代
オ 身近にいる人たちの一時的な評価を過剰に気にして、その評価に振り回されるような時代

問四 傍線部(2)「このような理由」とあるが、その理由が記されている段落は何段落ですか。段落番号で答えなさい。

問五 傍線部(3)「時代とともに変化している点に目を向けるべき」とあるが、どのように変化してきたのか、その説明として適当でないものを、次のア～オのうちから一つ選びなさい。

ア 勉強やスポーツが得意か否かによって評価される時代から、場を上手く盛り上げて友達との関係を器用に転がしていけるようなコミュニケーション能力が評価される時代へ
イ 客観的な評価の物差しによって自己の評価が定まる時代から、個々の場面で具体的な承認を周囲から受けることによって、自己の評価が定まる時代へ
ウ 内在化された「抽象的な他者」によって自己肯定感の安定した基盤を確保した時代から、身近にいる「具体的な他者」からの評価に大きく依存する時代へ
エ 規範の拘束力が強く、その抑圧的な社会に対して満たされない思いを抱えていた時代から、特定の枠組みを強制されるうっとうしさから解放された時代へ
オ 社会の物差しを自らの内面に取り込むことができた時代から、抵抗文化の物差しを自らの内面に取り込むことによって自分が属する文化の正当性を確保できる時代へ

問六 傍線部(4)「いまの教室は、その能力が専制力をもった空間」とあるが、一～九段落では、他者との関係において学校はどのように定義づけられているか。その箇所を二十字で抜き出しなさい。

問七 傍線部(5)「コミュニケーション能力は、相手との関係しだいでも高くも低くもなりうるもの」とあるが、コミュニケーション能力の高低が相手との関係によって変化する具体的な状況を自分で考え、簡潔に記述しなさい。

問八 二重傍線部「我が道を進む」と孤高にふるまうこと」とあるが、かつてそのような生き方ができた理由を100字以内でまとめなさい。

Ⅱ 次の各設問に答えなさい

問 1. 次の英語を日本語になおしなさい。

1. The only true wisdom is in knowing you know nothing.
2. It takes time to become an expert at anything.
3. She has changed. She is different from the girl I once knew.
4. The good life is one inspired by love and guided by knowledge.
5. The most important thing in communication is to hear what isn't being said.
6. The shortest way to do many things is to do one thing at a time.
7. It isn't what you have, or who you are, or where you are, or what you are doing that makes you happy or unhappy. It is what you think about.

問 2. 次の短い詩の、英語の部分は日本語に、日本語は英語になおしなさい。

Don't walk in front of me, I may not follow.

Don't walk behind me, I may not lead.

ただ私のそばを歩いて、そして友達でいて

問 3. 次の日本語を英語になおしなさい。

1. 私は昨日、友達とショッピングに行った。
2. 彼は面白い本を探していた。
3. 私は明日の朝早く、散歩に行きます。
4. 私は英語で話すのが得意ではない。

問 4. 次の英文の意見について、あなたの考えを50単語程度の英文で書きなさい。(数字を使う場合、年号以外は英語のスペルで書くこと)

There is always a next time.